

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	武雄市立山内西小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>①知的な学校【知的好奇心の育成】について 佐賀県教育委員会研究指定事業「プログラミング教育」の1年目だった。自ら課題を立てて学習に取り組むことができる児童が90パーセントに達したことから、児童が見通しをもって学習に取り組めるような教師の指導力が向上したと考えられる。次年度は、プログラミング教育の年間計画、学年間の系統性、公開授業の持ち方、研究の組織づくりについて全職員で共通理解し、共通実践に更に励んでいきたい。</p> <p>②居心地のいい学校【自己肯定感の育成】について 週1回気になる児童の情報を全職員で共有したり、教育相談週間を年2回実施したりしたことで、児童の悩みやいじめの早期発見に組織的に取り組むことができた。また、SCや関係機関と連携を取って、不登校傾向児童への対応策を講じることができた。次年度も引き続き、SCや関係機関との連携を強化して、いじめの早期発見や不登校児童へのよりよいアプローチをしていきたい。</p> <p>③元氣な学校【挑戦心の育成】について 「西っすよいこのくらしのカード」や「生活振り返りカード」を用いて、保護者への啓発を図ったことで、基本的な生活習慣を身に付けている児童が95%に達した。また、体育的行事の工夫によって、児童の体力向上につながった。次年度も、外遊びを奨励するような放送をしたり、外遊びが楽しくなるような行事を設定したりして、児童の健康・体力づくりの向上を図りたい。</p>

2 学校教育目標	やる気いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 輝く山内西の子
----------	-------------------------------

3 本年度の重点目標	①全職員の共通実践を通じた教職員の資質向上 ②人権教育の更なる充実による児童の自己肯定感の育成 ③体育的行事の工夫による児童の健康・体力づくりの向上
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価			
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)		実施結果	評価
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上 ○単元テストの正答率が80%を上回る。	「授業づくりステップ123」のチェックリストを活用した自己評価を定期的に行い、授業改善の意欲の継続を図る。 「家庭学習のてびき」を全家庭に配布し、家庭への啓発を図るとともに、「授業ノート」や「自主学習ノート」などを掲示し児童の学習への意欲を喚起する。	B	2か月ごとに自己評価を行うことができ、職員の意識保持はできている。しかし、進捗重視の授業形態になり、「学び合い」や「ふりかえり」までを目指した授業展開に課題を抱えている。今後は、児童主体の授業を確認し取り組んでいきたい。 各学級で、自主学習についての進め方や模範のノートの掲示など、児童の意欲を喚起しながら取組を進めてきた。今後は、学習内容の習熟が図れるよう、学習の仕方や課題の取り組み方も示していきたい。	A	年間6回「授業チェックシート」による自己評価を行った。今年度は一斉型の授業形態が多くなり学び合いなどの話し合いや意見を交換する機会が少なく、ポイントが伸びなかった。学力向上研修会を1月に実施し、全職員で児童の実態を把握し改善すべき課題を共有する機会を設けることができた。 「授業がわかる」と回答した児童が95%、学習や生活で目標を達成している児童が91%であった。学習時間や学習内容については学級ごとの指導や進捗による差への啓発があり、児童の学習意欲を喚起している。 単元テストの正答率は80%を上回った。しかし、12月の学習状況調査の結果は単元平均等が下回っている。技能面の定着は見られるが、読解や記述に課題を顕し、授業改善していくことで対策を講じていく。		
	○プログラミング教育の推進	○プログラミング教育に関する授業研究会を行った教師90%以上 ○「プログラミングの学習は楽しい」と答えた児童80%以上	原則全職員がプログラミング教育に関する授業研究会を行うものとし、必ず授業前の指導案検討や授業後の研究会をグループで行う。	B	提案授業を7月に行い、その授業について検討した。夏休み期間中に全職員がプログラミング教育に関する授業の構想を立てており、9月に降それを実施する予定である。今後、児童へのアンケートを随時行う。	A	すべての職員がプログラミング教育に関する授業実践を行い、それに対する研究会や情報交流を行うことができた。 「プログラミングの学習は楽しい」と答えた児童は89%おり、ほとんどの児童が楽しみながらプログラミングの学習に取り組むことができた。		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校が楽しい」と答える児童を85%以上にする。 ○「自分や相手が大切だ」と思う児童を85%以上にする。	「ふれあい道徳」を年に1回以上全クラスで実施し、学級便り等で保護者に知らせる。 ・人権・平和教育は全教育課程に位置づけ、教育活動の中で、子どもと周りの人とのつながりや、一人ひとりの存在を認め合うようにする。 ・運動会や青空教室等で異学年交流ができるように、「ふれあい班」を編成する。	B	各学級で平和に関する授業を行った。 「ふれあい班」ごとに集まり、放送による平和集会を実施した。各自平和への願いや誓いを折り紙の裏に書き、異学年交流をしながら折り鶴を折った。 「ふれあい道徳」の授業参観は、2学期に実施予定。	A	91%の児童が、学校が楽しいと感じて学校生活を送ることができている。また、90%の児童が、自分や相手が大切だと思って行動することができている。 「ふれあい道徳」の授業参観は、コロナ対策をしながら、全保護者に参観の機会があるよう実施し、多くの保護者に参観していただくことができた。また、学級だより等で授業内容の様子を伝えることができた。 「思いやりの本プロジェクト」を年間通して行い、思いやりの気持ちも育むことにつながった。		
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「やまうち合言葉」の「優しい言葉を周りの人」を意識して行動できる児童(自己評価で)を90%以上にする。	・共通認識のもと、教師も「さん」をつけて名前を呼ぶ。 「教育相談」「いじめアンケート」を実施し、いじめや気になる児童の早期発見・早期対応に努める。	B	教師の児童の名前を呼ぶときの「くん」や「さん」が徹底していないので、共通認識のもとに取り組みたい。 教育相談月間を6月に設け、「いじめ・体罰アンケート」を全児童に配布した。その後、気になる児童を中心に教育相談を実施した。	A	94%の児童が、自分や友達のことを大切だと思って、行動することができている。 2学期も引き続き、「いじめ・体罰アンケート」を実施し、回答に応じて、担任が個別に教育相談を行った。今後も、「いじめ・体罰アンケート」を計画的に実施し、いじめや悩みを抱えた児童の早期発見・早期対応に努める。		
	○特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する専門性が向上した教師80%以上を目指す。	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、連絡会による情報共有	A	武雄市子ども発達支援室による「発達障がいの子ども」についての研修会を実施した。 ・ケース会議は個に応じて随時、連絡会は週に1回は継続して行っている。	A	発達連絡会でのケース会議を通して、ほとんどの職員が特別支援教育の視点からの共通理解を図ることができている。 ・巡回相談や専門家派遣、SCなどを有効に活用し、連携や職員の研修がすすんでいる。		
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・各学級で安全教育について指導する。 ・登校班で歩いてくることを奨励し、交通ルールなど定期的に全校児童で確認をする。	B	交通ルールを守り、安全に登下校できている。 ・登校班で歩いてくるのが難しい児童が若干名いるようである。	A	交通ルールを守り、安全に登校できている。 ・87%の児童が歩いて登校できている。		
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上を目指す。	・各学級での食育指導を行い、食事の必要性に気付かせる。 ・給食時間の放送を通して、食材の産地や調理方法に関心をもち、給食の大切さに気付かせる。	B	給食の残量は全校的に少なく、食事の必要性も大部分の児童が理解している。 ・毎日、給食委員会が食材や産地の放送を行っているが、集中して放送に耳を傾ける児童は少ない。	A	給食の残量も少なくなり、時間内に食べることができる児童が多くなっている。 ・給食委員会が実施した給食週間の取組で、全校的に食に対する意識が向上した。 ・92%の児童が、好き嫌いをせずにバランスよく食べている。		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●業務委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する	・定時退勤日(毎週金曜日)を確実に実施し、18時に施錠する。 ・校務システムを利用して、職員会議等の時間を削減する。	B	定時退勤日は、毎週確実に実施することができた。職員の時間外勤務平均時間は35時間だった。ただ、個人差があり、超過勤務が多い職員には、個別に声をかけて、業務改善を促したい。 ・会議の終わりの時刻を明確に示したことで、時間内に終わることができた。	A	職員の時間外勤務時間の平均は33時間で、教育委員会規則に掲げられている上限を遵守することができた。 ・校務システムを最大限に活用したことで、職員会議等の時間を削減し、終了時刻前に終わることができた。		
	○「コミュニティ・スクール」及び「官民一体型学校」としての開かれた学校づくり	○保護者アンケートで「開かれた学校づくりに努めている」の肯定的な回答を90%以上にする。	・地域と連携した教育活動の様子を、学校HPや学校・学級だより等で定期的にかつ積極的に情報発信する。	B	地域の方を学校に招くことができない状況が続く。地域と連携した活動が昨年度のようにはできなかった。今後、少しでも、地域と連携した教育活動を行って、地域に情報発信していきたい。	B	地域と連携した教育活動を行い、それを学校だよりやHP等で発信したことで、保護者アンケート「開かれた学校づくり」に努めているの肯定的な回答が99%となり、取組目標を達成することができた。ただ、今年度は昨年度のように、地域の方に学校に来ていただくことができなかった。		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価			
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)		実施結果	評価
◎志を高める教育	○自らの夢や目標をもち、それに向かって努力しようとする気持ちを高める教育活動を推進する	○児童アンケートで、授業内容が「わかった」「できた」と回答する児童を80%以上にする。	・授業の振り返りを毎時間確実に実施する。	B	「授業づくりステップ123」のチェックリストを活用した自己評価を定期的に行い、授業の振り返りを行うことへの職員の意識は継続している。しかし、進捗度等の状況もあり、確かな実践については課題がある。今後、より効果的に振り返りを実施し、達成感を高めるよう取り組む。	A	「毎日の授業がわかる」と回答した児童が95%、「学習や生活で目標を達成している」と回答した児童が94%であり、目標を達成することができた。 「授業づくりステップ123」のチェックリストを活用し、日々の指導を振り返りながら、授業の質を高める努力を怠らないうえに、取組目標を達成していると思われる。		
○立腰教育の推進	○立腰三原則の徹底	○立腰がきちんとできる児童(自己評価)で90%以上にする。 ○気持ちの良い返事・あいさつ・言葉遣い・話を聞く姿勢・はきもの揃えを意識して行動できる児童(自己評価)で85%以上にする。	・あいさつ・あいさつ運動、日常の学級指導 ・返事・・・日常の学級指導 ・後始末・・・環境委員会を中心に履き物(くつ箱、トイレ)揃え、掃除用具を正しく片付ける活動を仕込む。	B	あいさつ、返事は、日常の学級指導を中心に取り組んでいる。 ・後始末は、毎日環境委員会が中心となって、履き物揃え、掃除用具の確認を実施することで、意識を高めている。また、定期的に掃除パトロールを行うことを通じて、立腰、無言掃除を徹底させた。	A	あいさつ、返事は概ねできているが、自ら進んで行うことは不十分であり、継続指導が必要である。 ・後始末も概ねできていた。毎週の点検結果の告知やパトロール等の取り組みの成果もあり、意識付けができていた。		

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育</p> <p>全職員が「授業づくりのステップ123」のステップ3を目指すという共通理解のもと、日々の教育活動やプログラミング教育等の共通実践を行ったことで、児童アンケートの「毎日の授業がわかる」と回答した児童が95%となった。共通実践を通じた教職員の資質向上を図れたことが、この結果につながったと思われる。 毎日の「やまうち合言葉」の確認、「思いやりの本」プロジェクトの定期的な取組、人権週間・平和週間の取組等を行ったことで、児童アンケートの「学校が楽しい」と回答した児童が91%、「自分や友達のことを大切だと思って行動している」と回答した児童が94%に達した。全職員で共通理解を図って、児童一人一人の存在を認め合うようにしたことで、自他の生命を尊重する心や思いやりの心が育まれたと考ええる。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため例年とは違った形で、運動会、走ろう大会等の体育的行事を工夫して実施し、児童の体力向上を図ることができた。また、給食委員会や栄養教諭が放送等で児童に食の大切さを伝えたことにより、児童の食に対する意識が向上し、給食の残量が少なくなったり、児童アンケートの「好き嫌いをせずにバランスよく食べている」と回答した児童が92%に達したりした。 次年度も、全職員で共通理解を図って、様々な教育活動を行ってきたい。</p>
--------------------	--